

平成 28 年 1 月 21 日～28 日付_誤植 2 月

フトマニ講座

フトマニお述ぶ

ホツマツタエ研究家 吉田六雄

解説

ホツマツタエの 29～40 アヤ（綾）を編集されたスエトシ（オオタタネコ）は、フトマニをスメラギ（天皇）に上奏するに当たって、アマテル神の御世にフトマニが作られた経緯を詳しく説明されました。

（追伸）文中でモトモトアケをサコクシロと呼んでおりますが、ホツマツタエの記述を見ると、サコクシロの初見は 50 鈴の頃であり、アマテル神が生きた 21 鈴～約 32 鈴の言葉でなく以後にできた新しい言葉のようです。詳細は（注 3）を参照方。

左列 フトマニ本文

右列 解説（赤文字は原文の直訳文）

フトマニお述ぶスエトシ

フトマニは
瓊と矛を
両神も
道生みて
生まんとて
生みまして

インシ（注 1）天神
授け給えば
国土万の
君たる神お
一姫三男神

政こと
授けます
大御神
勅り

治らする国の
皇子ワカヒトに
受けてアマテル
八百万神に

フトマニお述ぶスエトシ（解説）

『フトマニ作りは、インシ天神（注 1）より瓊と矛を授け給えば（給わされた）イザナギ、イザナミの両神に引き継がれました。その両神の政りも、果敢に国土作りへと万の道を生み出されて、君たる（君であるところの）日嗣皇子神お生まん（生もう）とて（と思われ）、一姫（ヒルコ姫）三男神（ワカヒト、モチキネ、ハナキネ）を生みもつけられまして（た）。

ワカヒトが日高見より日のヤマトの新宮に移られた過ぎし日、イサナミのアマカミ（天神）は、クニトコタチより日嗣されて来た治らする国の政ことを皇子ワカヒトに授けられます。政ことを受けられて、アマテルの大御神は、国中の八百万神にモトアケ図を説明され、フトマニを詠めと勅りされました。

<p>四十九（神）おは サコクシロ（注3） 寄る形</p>	<p>このフトマニの 元々明（注2）の 天御祖（神）に</p>	<p>このフトマニのモトアケ（元明）の神座に配置されております四十九の神おは、モトアケ図の中心（アウワ）にして、モトモトアケ（元々明）（注2）のサコクシロ（注3）に鎮座しており、その天御祖（神）を真ん中にして、四十九の神々が寄り沿える形になってモトアケ図が作られております。</p>
<p>エヒタメの 霊の緒お 永らえお</p>	<p>傍にトホカミ 八神は人の 含み降らせて 結び和せば</p>	<p>そして、その傍（外周）にトホカミエヒタメのモトモト（元々）神の八神が配置され、八神には人のタマ（魂）の緒お含み降らせて、人の寿命を永らえおさせ、結び和せば（て）守らせました。</p>
<p>アイフヘモ キツヲサネ 整えり</p>	<p>オスシの神は 五臓六腑お</p>	<p>更に、モトモト（元々）神の外側に配置されているアナレ（天並）神のアイフヘモオスシの神は、キ（東）ツ（西）ヲ（中央）サ（南）ネ（北）の全方位と、人間の健康に重要な役目を持っている五臓六腑お（を）整えり得る働きを見守る神になります。</p>
<p>見目形 守らせば</p>	<p>三十二の神は 日夜のまにまに</p>	<p>更に、アナレ（天並）神の外周に配置される三十二の神は、人の見目形を日夜のまにまに守らせば、人の世の守り神になります。</p>
<p>元裏と 考なえて 詠ましめて 添え削り 選り賜ふ 文ぞ、タフ時</p>	<p>このフトマニお 万葉の味お 試み詠めと 神は知れ長 百二十八歌 元ら伝えの 三輪のスエトシ</p>	<p>このフトマニの意味は、モトアケ図の四十九神を二間飛ぶお持って、元の裏（占い）の組み合わせとし、抽出で合わさった万の言葉の意味合いお、更に考なえ（考え）て、試み詠めと詠ましめており、この中よりアマテル神は、知れ長（ワカの達人）を持って、抽出された言葉を添え削りして、百二十八歌を選り賜</p>

ふ（われ）、これを元裏ら伝えの文とされ
ましたぞ、タフ時

三輪のスエトシ

（注1）インシ天神

ホツマの2アヤ（綾）では、「時に天より両神に ツボは葦原 千五百秋 汝用ひて 治らせとて 瓊と矛給ふ」と記述しており、インシ天神の意味を両神の一代前の「オモタル、カシコネ」とする意見の根拠は不明である。

（注2）モトモトアケ（元々明）

17アヤ（綾）21～21を見ると、「まさに聞け 元々明の 御祖神 傍の トホカミ エヒタメの 八元の神に 守らしむ」の記述には、サコクシロの言葉かない。

（注3）サコクシロ（精奇城）

サコクシロの言葉の初見は、28アヤ（綾）33であり、ホツマツタエの前半を書いたクシミカタマの最後に書いたアヤ（綾）であり、50鈴に初見された言葉である。それに対し、フトマニはアマテル神（アマテル神の生存はホツマツタエの記述より、約21鈴～約32鈴までと推定される。）が選定したと云われるが、そのフトマニの選定とサコクシロの言葉は、年代的に合わない。このことからアマテル神が日の輪に帰られた後、御祖神の元々明の宮のサコクシロを五十鈴川に降ろして、サコクシロを造ったことがサコクシロの語源と察せられる。

（吉田説）

（おわり）